

山梨でリニア・南アルプストンネル抗議集会

南アルプスの地層は複雑で動いている。

長大トンネルを掘るのは危険きわまりない。

～松島信幸氏(理学博士)が講演で警告



2月27日午後1時半から、山梨県中央市の玉穂生涯学習館で、リニア新幹線沿線住民ネットワーク主催による「ユネスコエコパーク南アルプスにトンネルを掘るの?! 市民集会」が開かれ、山梨県内やリニア沿線住民グループから120人が参加しました。JR東海は昨年12月18日、南アルプストンネル工事の山梨県側の坑口にあたる早川町で着工式を強行しました。27日の集会はこれに抗議し、本格着工を阻止するため工事の危険性を訴えるものでした。



集会の第一部で、地質学者で理学博士の松島信幸さんが「南アルプスにトンネルはなぜ危険か」というテーマで基調講演しました。以下は講演の概要です。

南海トラフ地震で南アルプスも震源地になる

「世界の地震、火山活動の一割は日本に集中しており、その中心は南アルプスと甲府盆地だ。南アルプスの赤石岳は三千メートルあるが、南海トラフからの立ち上がりを計算に入れば8千メートルの標高になる。南アルプスは正しくは赤石山地であり、地層は南海トラフから赤石岳の下を通り甲府盆地まで延びている。南海トラフを震源とする大地震が起きれば、南アルプスも震源地となり、甲府盆地も大きな揺れに見舞われる。

日本のトンネル技術は世界最高で、土木技術者は『身震いする』と意気込んでいるが、掘ってしまったら将来、山が死んでしまうことが問題だ。たとえ技術的に素晴らしい工事だとしても、リニアの南アルプストンネルはやってはいけない工事だ。

リニアのトンネルの断面を見ると左右に膨らむ横長の円形である。下部の構造を強くしないと下から土が盛り上がってくる。また、トンネルに水が入らないように防水シートを付け、支保工をつく履工を完璧にし、多くのロックボルトを岩盤に打ち込まなければならない。その工事に相当時間を要する。これをしっかりやらないと、水と岩石がまじりあった地下水がものすごい勢いでトンネル内に吹き出す。

土圧、地層のねじれなど、トンネル工事も本体も危険だ

南アルプスをつくる地質は地層は千切れたズタズタの混在岩で、西俣や荒川前岳などあちこちで山体崩壊が目立っている。大井川上流部の小西俣は成沢岳と塩見岳がせめぎ合っているところであり、断層破碎帯となっているが、地表だけでなく地下も同じ状態だ。地層は回転し逆転している。南アルプス地下の地層変化は日本最大の大きさとペースであり、そこにリニアのトンネルを掘るのは危険極まりない。

リニアの想定ルートを見ると、南アルプスのルートの2か所に大きなカーブが見られる。なるべく直線をルートにするリニアにしては大きな曲りだ。事前調査で真っ直ぐいけない危険な要素を察知したからではないか。トンネル工事は土被りが厚いほど岩圧、土圧を受ける。対策をきちんとしてないとトンネルはつぶれる。山を冷やすことで地下水の噴出を防ぐことも対策の一つであるが、大成建設が福島第一原発でやっている凍土壁の設置は、赤石岳を掘るための準備ではないか。

危険なトンネルを掘ってリニアを走らせる、それでも安全だとは到底信じることはできない。」

ストップ！リニア訴訟、川村晃生共同代表が訴訟への協力を訴える

松島さんの基調講演に続いて、リニア・市民ネット代表でリニア新幹線沿線住民ネットの共同代表・川村晃生さんがミニ講演として、5月連休明けに提訴予定の「ストップ！リニア訴訟について準備状況を報告するとともに、参加者や沿線住民グループに更なる協力を訴えました。発言で川村さんの発言要旨は……



「一昨年12月、私たちリニア沿線住民を中心に5,048人もが国交大臣の工事認可の取り消しを求めて異議申し立てをしたが、それが放置されており、このまま結論が出ないままでは埒が開かない。その到達点が裁判である。

JR東海、国交省と私たちには圧倒的な力の差があり、情報開示、お金、時間といった点で私たちは不平等な立場に置かれている。こうした巨大な相手と原告と被告という形で対等に争えるのが裁判だ。法廷を大事な場として考えたい。行政訴訟のこれまでの判決を見ても勝つためには相当な努力が必要だ。昨年来、弁護団は全幹法と環境影響評価法をもとにリニア事業の不法性を検討してきたが、全幹法の基になっている鉄道事業法に照らしてリニア事業に正当性があるかも検討課題であり、事業認可の答申を出した国交省・中央新幹線小委員会の20回にわたる審議過程も提訴に向けて子細に検討している。原告・サポーター募集は今月末まで行われるので、皆さん、多くの方に協力してもらおうよう奮闘していただきたい」。

集会はこのあと質疑応答のあと、沿線各グループからの報告とJR東海からの連帯表明があり、最後に工事の中止を求める集会宣言(下記)を採択して午後5時前閉会しました。

集会宣言

JR東海は、昨年12月18日、山梨県早川町内で南アルプスを貫くトンネル工事の起工式を行い、本年3月には早川非常口となる作業用トンネル(2.5km)を、秋からは本線トンネルを掘りはじめると発表しました。そして2025年秋には完成にこぎつけるという工事日程を示しました。

しかしJR東海自身が認めるように、このトンネルは「掘ってみないとわからない」というもので、これまでも多くの識者から、その危険性が指摘されてきました。その最大の問題は、半世紀以内に必ず起こるとされる南海トラフ地震で、その一つ東海地震はリニア新幹線の予定地を直撃します。これまでも東海地震は南アルプスの山体崩壊や深層崩壊を発生させており、工事中にせよ、完成後の営業中にせよ、間違いなく大惨事を起こすと考えられます。

そのほかにも、今日の説明にもあったように変動して行く山岳帯での安全は確保できず、また地下水の状況がまったくわかっていないことによる不確実性など、危険性を挙げれば際限がありません。

しかも掘削残土をどこに処分するのか、そのあてもはっきりしておらず、また大井川の水の減少がほんとうに毎秒2トンで済むのかも不明で、さらに地下水の変動による自然や生態系への影響など、ずさんなアセスのまま事業は進められています。

私たちはこうしたJR東海の工事の進め方に、強い憤りを覚え、工事中止を強く訴えます。神々しいと言える南アルプスの山容に、横暴にも大穴を開けることは決して許されません。

私たちは、「今からでも遅くはない、南アルプスのトンネル工事は即刻中止を！」と、声を大にして訴えます。

2016年2月27日

ユネスコエコパーク南アルプスにトンネルを掘るの?! 市民集会参加者一同

(報告記事まとめ=天野捷一)